

令和7年10月23日

日立理科クラブ通信

No. 258



日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて2 日立市立水木小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、水木小学校（長谷部和宏 校長）の川那辺敏弘（かわなべ としひろ）さんです。

川那辺さんは、滋賀県守山市の出身です。守山市は、日本一大きな湖である琵琶湖にかかる琵琶湖大橋の東のたもとにあり、気候が温暖でとても住みやすいところです。子どもの頃は、遊びも、勉強もなんでも率先してやっていました。算数や国語の朗読が好きでした。科学自由研究で「クモの研究」を行い、賞をもらったこともあるそうです。

理科クラブに入る前は、コンピューターを使ってプラントを制御するシステムの設計、製作をするシステムエンジニアの業務を行っていました。システムは、航空および海上の監視システム、船舶の操縦シミュレーションシステムなどです。最後に担当した仕事は、現在も利用されているETCシステム（高速道路の料金所をノンストップで通過できる自動料金収受システム）です。最先端の仕事ですね。

理科室のおじさんは4年目です。学校では、「理科室のおじさん」と呼ばれています。理科室で、実験の予備実験をし、注意することや、実験がうまくいくやり方を把握するようにしています。例えば、空気の対流の実験で、どのへんに線香を近づけるとうまくいくか確認します。そして、コツを先生に伝えます。先生の指導で児童もうまく実験ができたときに、やってよかったなと思います。失敗するのもよい経験になりますが、小学生には成功体験も大事だと考えています。理科室で実験しないときにも、テスト以外は教室で授業のサポートをするようにして、どんな学習をしているのか把握するようにしています。

理科室には、大きな電子黒板があります。デジタル教科書や児童のノートなどを大きな映像で示すことができ、よい環境ができていると思います。理科準備室には、水ロケットもたくさんありました。川那辺さんオリジナルの水ロケットは、クラブ活動で利用しているそうです。先日は、昼休みを利用して、水ロケット大会に向けた出前授業を行ったそうです。10月26日（日）の大会を楽しみにしていました。

児童から、今日の理科は何の実験をするのですかと聞かれたときや、「理科が好き」、「理科の実験が好き」と言われたときには楽しさを感じます。川那辺さんが、児童に伝えたいのは、自分の頭で考え、自分の意見をもつことです。また、「間違っただけいいよ、間違いが分かれば、それを正せばいいよ」、ということです。これまでの自分の経験から、社会人になって、グローバルな世の中で生きていくためには最も大事なことと思うからです。

最後に、水木小学校のよさを聞きました。先生方が児童への教育に熱い思いをもっていることと話していました。休み時間などに、児童一人一人のよさをよく話題にしているそうです。先生方に励まされて、人間として成長したと思う児童を何人も見ているそうです。

水木小学校は、ラジオ体操の父遠山喜一郎さんの出身校です。また、玄関には、水木交流センターからいただいたというウーパールーパーが飼われています。卒業生や地域の力を借りながら、一人一人を大切にしているのを感じました。



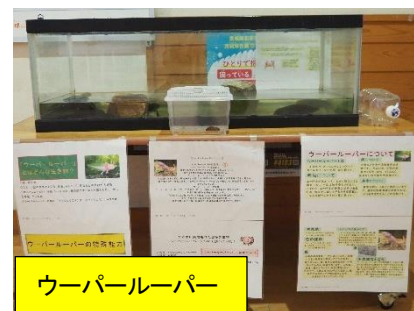
「理科室のおじさん」川那辺さん



大きな電子黒板



オリジナルの水ロケット



ウーパールーパー